

あいち病害虫情報 最新情報

平成23年11月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

気温は高め、晴れの日が少ない

名古屋地方気象台11月11日発表の1か月予報によれば、東海地方では、平年に比べ晴れる日が少ない見込みです。向こう1か月の気温は、平年より高い確率が50%、降水量は平年並または多い確率が40%、日照時間は平年並または少ない確率が40%となっています。

ムギの排水対策を徹底！

安全で品質の良い麦が求められており、赤かび病によるかび毒汚染の防止は必須です。排水不良は生育不良を招くだけでなく、赤かび病の発生を助長するので、排水対策を十分に行いましょう。

また、種子伝染性病害である裸黒穂病、なまぐさ黒穂病などを防ぐためにも種子消毒をしっかりと行いましょう。

キャベツ、ハクサイの菌核病に注意！

キャベツやハクサイでは、菌核病が発生する時期です。発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。なお、本病の病原菌は多くの植物に感染するので、菌核病が発生している地域では、他作物でも発生に注意しましょう。

果菜類の灰色かび病

果菜類では、気温が低下するこの時期から灰色かび病の発生が多くなるので注意しましょう。暖房機の設定温度を低くしている場合は、積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて処分しましょう。

トマト葉かび病、トマトすすかび病

トマト葉かび病、トマトすすかび病は、施設内の湿度が高くなると発生が増えるので、灰色かび病と同様に多湿にならないようにしましょう。また、なり疲れは発生を助長するので、肥培管理にも気をつけましょう。

イチゴうどんこ病、イチゴのハダニ類に注意！

イチゴうどんこ病は、平年並の状況です。本病は多発すると防除が難しくなるので、初期防除に努めましょう。

ハダニ類の発生はやや多い状況です。ミツバチへの影響に配慮しながら、防除を徹底しましょう。天敵を利用する場合は、導入前に防除を徹底し、ハダニ類の密度をさげてから放飼しましょう。ハダニ類の発生が少ないほ場でも、今後気温が高めに推移した場合は、発生が多くなるので、ほ場をよく観察し、早めに防除しましょう。

ナス、キュウリのミナミキイロアザミウマに注意！

ナスでミナミキイロアザミウマの発生はやや多い状況です。ほ場での発生状況に注意し、早めに防除しましょう。防除対策などは11月7日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

キュウリでは、本虫が病原ウイルス(MYSV)を媒介するキュウリ黄化えそ病の発生が県内各地で確認されています。発病株は抜き取り、適切に処分するとともに、本虫の防除を徹底しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820